

東北復興に向けて～派遣事業の報告～

(報告者：史跡資料活用課長 今福利恵)

東日本大震災から4年が過ぎましたが、東北地方の沿岸部は津波被害の爪痕がまだまだあちこちに残っています。そのような中、復興支援に山梨県埋蔵文化財センターは3年前から毎年職員を派遣しています。じっさい全国からおおぜいの職員が支援に派遣されて地元の方とともに頑張っています。私は昨年の平成26年度の一年間、岩手県に派遣され、大槌町や「奇跡の一本松」のある陸前高田市の復興支援で遺跡発掘調査に携わりました。



堂の前貝塚(陸前高田市)での遺跡見学会

ました。まさに列島北から南までの混成部隊で、9月に始まり地元の作業員といっしょに3月いっぱいまで調査していました。調査中には、現地見学会や遺跡報告会などを行い、みなに知ってもらう機会をもうけました。ほかの派遣職員は、三陸沿岸道路関連や復興事業のための試掘調査など沿岸部全域で調査にあたっていました。

震災によって街の景観はなくなり、多くの方々の生活にもさまざまな変化をもたらしました。復興事業はすすんでいます、故郷を去って内陸などに転居される方も多いようです。今は復興事業の喧騒で市内全体が一見賑やかな感じがいたします。私どものこうした仕事が復興に役立ち、一日も早く地域社会がもとにもどることを心から祈念いたします。

陸前高田市は、被災の中心地で山から何本もの巨大なベルトコンベヤーが伸びて、100ha以上で最大11mのかさ上げ工事が盛んに行われていました。私が高台移転に伴う遺跡の調査に入ったのは、広田湾に面した標高30mほどの丘の上にある縄文時代後期の堂の前貝塚です。発掘調査は、福岡市派遣の1名と県派遣は北海道、埼玉県、鹿児島県、それと私の4名、計5名で行い



平成27年6月17日に文化庁長官より派遣事業に携わった職員に対して表彰が行われました。

夏のお楽しみ企画

- ・夏休み！発掘体験セミナー
日時：平成27年7月26日(日)/場所：身洗沢遺跡(笛吹市八代町)
午前の部10:30～12:00/午後の部13:30～15:00 定員30名
埋文センターへお電話にてお申し込みください TEL 055-266-3016
- ・甲府城青空教室(小中学生編)
日時：平成27年7月24日(金)30日(木)8月4日(火)10日(月)20日(木)
定員15名(要事前申し込み)
埋文センター丸の内事務所へお電話にてお申し込みください
TEL 055-228-0512

編集後記

今回、デザインを一新した埋文やまなしはいかがだったでしょうか？発掘調査情報を中心にお伝えしてきました。埋文クラフトの甲府城跡建物シリーズは、今後も続く予定です。最終的に甲府城跡のジオラマが完成すると楽しそうだなあと次回のペーパークラフトにも期待しつつ、今回の編集後記を終えます。

(池)

埋文やまなし 第48号

2015年7月17日発行

発行 山梨県埋蔵文化財センター

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923

☎055-266-3016

印刷 青柳印刷株式会社

山梨県埋蔵文化財センター報

埋文やまなし

http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/

第48号
2015.07.17

最新調査の成果

甲府城の追手門の石垣あらわる！！

甲府城は、今から420年前の戦国時代の終わり頃に、豊臣秀吉の命令で築かれた城です。豊臣時代の野面積みの石垣が今でもよい状態で残されており、城跡の一部は県の史跡となっています。

今回、山梨県庁東門の周辺工事に伴って、平成27年4月16日～24日まで行った発掘調査により甲府城追手門の石垣の一部が発見されました。追手門は、甲府城南側の正門ともいえる大きな櫓門です。追手門に関わる遺構を確認したのは初めてとなります。発見されたのは、追手門の北側の石垣の2ヶ所で石垣の一番下の根石(基礎)付近です。石垣の裏に詰められた栗石や石垣に付属する水路の一部もみつかりました。

石垣は、自然石やほとんど加工をしていない石を積み上げる野面積みの石垣で築城当時のものと考えられます。櫓門は明治時代初めに、石垣は大正終わりから昭和初期に取り壊されたと思われます。みつかった石垣は文化財的価値が検討され、失われた甲府城追手門の価値を考える上で一級の資料であり、遺構はそのまま埋め戻し、保存されることとなりました。

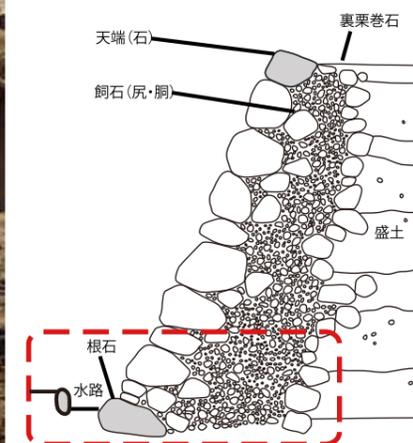


「甲府城絵図」甲州文庫(山梨県立博物館所蔵)

- ①追手門北側石垣の北面
- ②追手門北側石垣の南面



追手門北側石垣の北面(北から)



今回の調査で見つかった部分

石垣の断面模式図